群教セ	G14-01
	平 14.209 集

マルチメディア教材「古墳のひみつ」の作成

― 渋川市周辺や前橋市総社町付近の古墳を中心にして ―

特別研修員　　高橋　正博　（渋川市立古巻小学校）

《研究の概要》

本研究では、小学校第６学年の総合的な学習の時間で本校が取り組んでいる「古墳めぐり」の事前学習で、児童が古墳に対する興味・関心を高め、明確な課題をもつことができるようになるための教材を作成した。渋川市周辺や前橋市総社町付近の古墳情報等を中心に動画や写真、地図、クイズなどを取り入れ、Web ページ形式でまとめた。また、意欲が高まった児童にも対応できるように、「はにわ」や「リンク集」などの資料も付け加えた。

【キーワード総合的な学習の時間　小学校　社会　歴史　古墳　マルチメディア】

Ⅰ　主題設定の理由

本校では６年生の総合的な学習の時間において「歴史探検隊」と称して、「古代人の生活を探ろう」というテーマで学習を進めている。この活動は、いつの時代にもそこで生活する人々はたくさんの知恵を使って、よりよい暮らしをめざして努力してきたことを知り、現代社会を考えるきっかけにするというねらいを達成しようとするものである。

本学習内容は導入部分で「火おこし」「縄文土器作り」「古墳めぐり」の三つの大きな体験を通して、自己の課題を見つけ、その後、衣・食・住グループに分かれて調べ学習を展開していくように構成している。

古墳めぐりの活動では、毎年、前橋市総社町周辺の神社・古墳群などを見学してきた。現地学習に行く前にインターネットや文献などで事前学習を行ってきたが、地域が限定されているためか資料不足は否めなかった。また、見つけた資料でも言葉が難しかったり、専門的な用語が出てきたり、小学生ではその内容を理解するのが困難であった。さらに、今までの活動では、児童のもった課題が曖昧だったため、見学に対する意欲があまりみられないこともあった。さらには、本学習では歴史学習的な要素が多くみられ、社会科見学的な面もみられた。

そこで、動画や写真、地図、クイズなどをデジタル資料としてまとめ、一人一人の児童が古墳に関する興味・関心をもち、見学に対する明確な課題がもてるような教材を作成して活用すれば、児童の学習への意欲の向上が図れると考えた。

また、社会科で大仙古墳の航空写真を見た時、その大きさへの驚きやなぜこのような古墳が作られたのかなどの疑問が出てきた。さらには児童の中から自分たちの住んでいる地域には古墳や埴輪がないのかという質問も出てきた。そこで、本研究で作成するマルチメディア教材は社会科で出てきた児童の課題の解決にも対応できるような工夫も付け加えておきたいと考えた。また、意欲が高まった児童については実際に足を運べるように地域を渋川市だけに限定せず、その近辺にも視点を当てて教材を作成した。

このようなマルチメディア教材「古墳のひみつ」を作成することは、総合的な学習の時間での児童の主体的な学習を促すために有効な手だてであるとともに社会科でも児童の課題解決に迫れると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

小学校６年生の総合的な学習の時間「古墳めぐり」の事前学習において、「早く行ってみたい」、「もっと調べてみたい」という意欲が高まり、そして児童一人一人に明確な課題をもたせることができるようなマルチメディア教材を作成する。

Ⅲ　研究の見通し

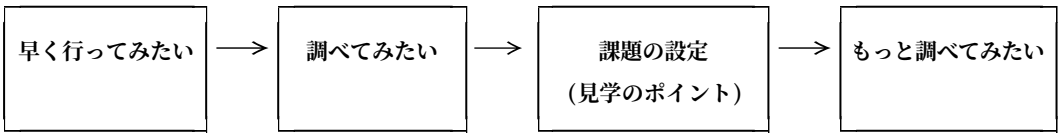
渋川市周辺や前橋市の古墳、さらには県内の古墳の分布や名称、所在地、歴史的な価値、また古墳に関する基礎知識などを動画や写真、地図、クイズなどのデジタル資料としてまとめた教材を作成すれば、「古墳めぐり」における事前活動の時に意欲が芽生え、そして関心が深まり、さらには一人一人に明確な課題をもたせながら主体的な学習ができるであろう。

Ⅳ　研究の内容

１　「古墳のひみつ」の概要

(1)　基本的な考え方

本校の第６学年の総合的な学習の時間で実施されている「古墳めぐり」における事前学習で児童一人一人が前橋市総社町付近の古墳に興味・関心をもち、「早く行ってみたい」という意欲が芽生え、「調べてみたい」という関心が深まることで児童一人一人が明確な課題がもてるような教材を以下のことに留意しながら作成した。また、今回の「古墳めぐり」の活動では行く予定のない古墳についても、自分たちの生活の場である渋川市、吉岡町を中心としながら、県内の古墳についての情報も豊富に取り入れ、「もっと調べてみたい」という意欲の高まった児童が学習の発展としても活用できるような教材を作成した。下記の図は本研究の児童の学習の流れを示したものである。



・意欲の芽生え　　・関心の深まり　　・自己課題(見学のポイント)の追求　　・学習の発展

なお、本教材は、児童が比較的容易に扱えるものが望ましいと考え Web ページ形式とした。

ア　「早く行ってみたい」「調べてみたい」という意欲や関心がもてる教材にするために

○　三種類の動画（石室の内部まで見られるもの、石室の入口までのもの、墳丘からのながめを撮影したもの）を編集して作成した。特に、石室の入口までの動画については効果的に文字を入れたり、あともう少しで石室の中が見られるというところで停止させたりして興味をもたせるようにした。

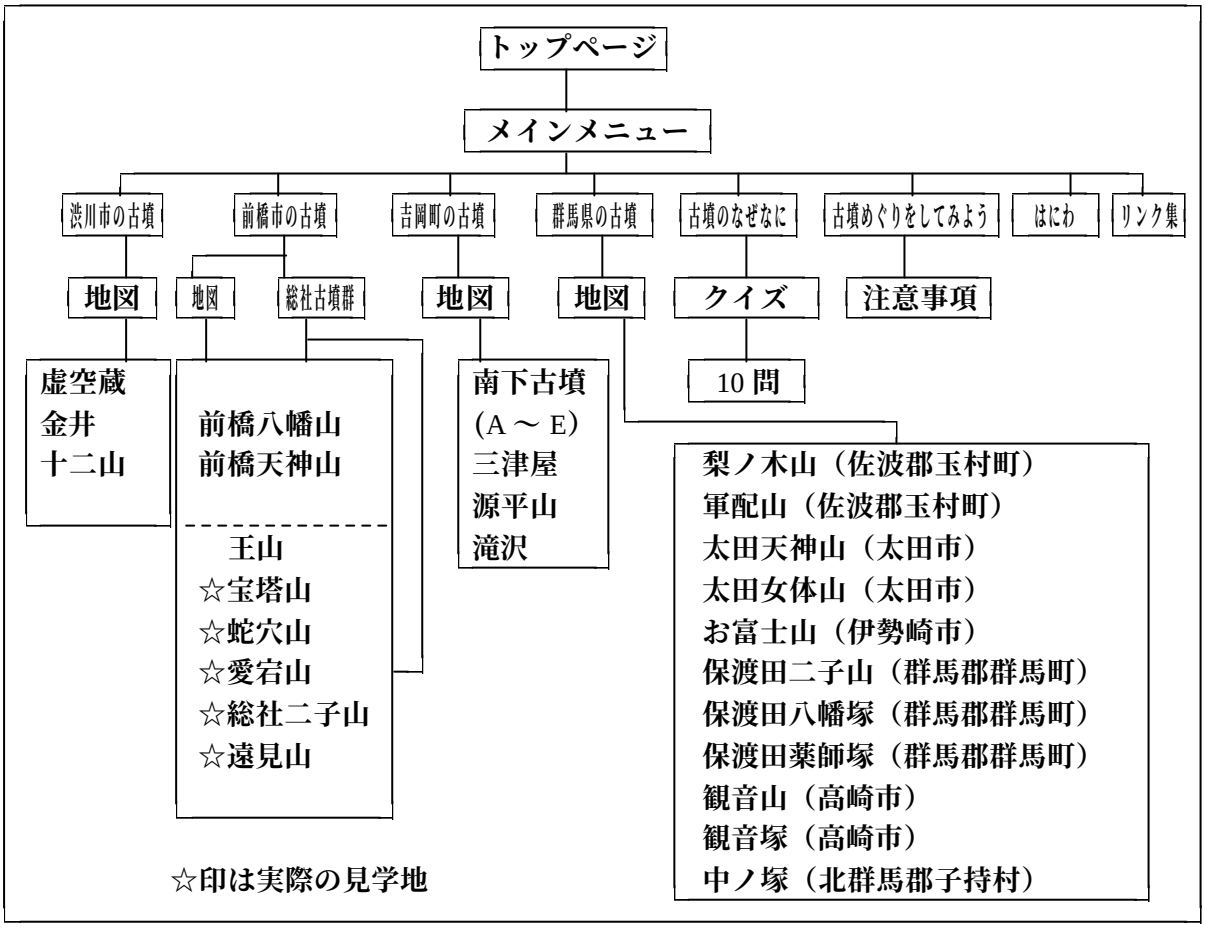
○　一人一人の児童が見学のポイントを見つけ出せるように、古墳の解説文をできるだけ簡潔にし、実際に行ってみたくなるような内容にした。

イ　「もっと調べてみたい」という児童に対応できる教材にするために

○　古墳に関する基礎知識を効果音や解説文などを入れながらクイズ形式にまとめた。なお、解説文については専門的な用語は最小限におさえ、できるだけ理解しやすい文にした。また、写真や図などを入れてその理解を助けた。

○　「古墳めぐり」で行く予定のない県内の古墳についての情報を入れた。
○　古墳の学習に関係の深い「はにわ」についての情報を県内の埴輪写真に限定して入れた。
○　実際に古墳を見学する時の注意事項を情報として明記した。
○　「リンク集」を作成し、インターネットを利用してさらに調べ学習ができるようにした。

(2)　教材の構成



2　マルチメディア教材の内容

(1)　メインメニュー

本ソフトウェアを起動すると、前方後円墳を形取った入口のページが出てくる。その入口をクリックすると左右ページで構成されたメインメニューが現れる(図１)。右ページには、古墳の形でデザインされた八つの項目を配置し、そこから学習が始められるように構成した。渋川市、前橋市、吉岡町の古墳についてはすぐにその情報が得られる項目を作り、その他の県内の古墳については群馬県の古墳という項目から入れるようにした。

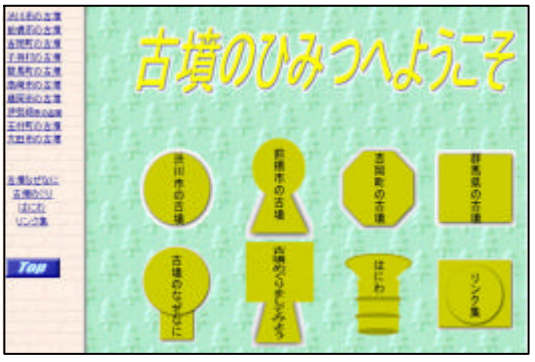


図１　メインメニュー

また、古墳や埴輪について興味・関心が高まった児童が楽しく調べ学習ができるようにクイズやリンク集、埴輪情報も項目として作成した。さらに、実際に古墳めぐりをする時の注意事項を「古墳めぐりをしてみよう」としてまとめた。一方、左ページには市町村名とその他四つ

の項目を配置し、そこをクリックすればすぐその情報が得られ、学習できるように構成した。

(2)　渋川市・前橋市・吉岡町の古墳

それぞれの古墳情報には「写真」、「所在地」「大きさ」、「地図」、「築造年代」、「副葬品」「解説および一言」を児童に理解しやすい言葉でまとめた（図２）。

写真については墳丘全体のものや石室内部のものなどを入れ、クリックすると大きな画像で見られるようにした。

「解説および一言」ではその古墳の歴史的な価値などを記述したが、「古墳めぐり」に実際に役に立つように取材した時の感想も入れておいた。

図２　前橋市にある宝塔山古墳

いくつかの古墳では疑似体験ができるような動画を入れた。石室の内部の大部分が見られるもの、その入口付近で終了するもの、また、墳丘からの景色を撮影したものなどである。特に石室入口付近で動画が終了しているものについては、実際に行って中が見てみたいという気持ちが高まるように文字などを効果的に挿入しながら作成した(図３)。

図３　入口直前で止まる動画の例

本教材は渋川市・前橋市総社町・吉岡町を中心として作成しているので、この三つの市・町については、古墳の位置関係が理解しやすいように全体の地図を入れた（図４）。この全体地図の中の古墳名をクリックすることで、その古墳情報を得ることができようにした。さらにそれぞれの古墳情報の中からその古墳周辺の詳細地図も配置した。この詳細地図を利用すれば、実際に見学に行く時に役に立つと考えた（図５）。

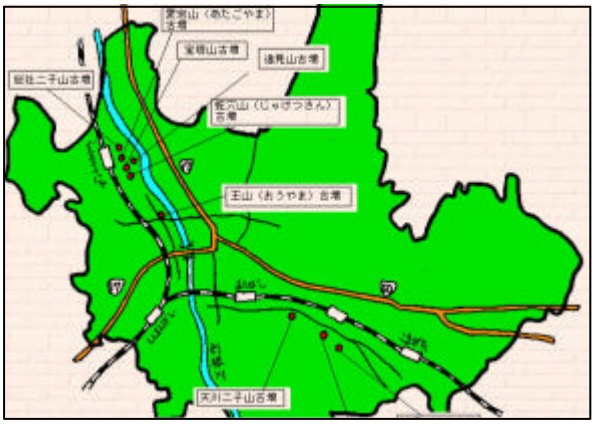


図４　前橋市の全体地図

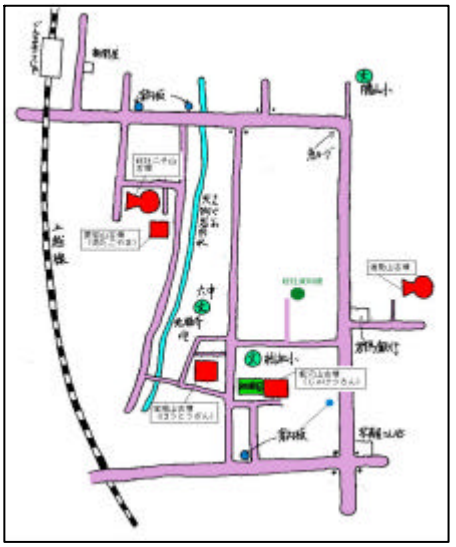


図５　総社町付近の詳細地図

(3)　群馬県の古墳

古墳に興味・関心が高まった児童がさらに学習の幅が広がるように、群馬県全体まで古墳情報を広げた。地図に色がついている市町村をクリックするとその市町村の古墳情報が得られるように構成した(図６)。内容については写真・所在地・大きさ・地図・年代・副葬品・解説および一言を児童に理解しやすい言葉で作成した。また、全部の古墳ではないが動画も取り入れて興味・関心がさらに高まるようにした。なお、県内で確認されているすべての古墳情報を載せることができなかったので、今後増やしていくとともに、内容の充実を図っていきたいと考えている。

図６　群馬県の古墳(入口のページ)

(4)　古墳のなぜなに

児童がクイズ(10 問)を通して、古墳の基礎知識が身に付けられるようにした。また、このクイズを通して、古墳を通した歴史の楽しみも見つけさせたいと考えた。正解だと思う番号をクリックすると、その答えが出てくるように構成した(図７)。正解するとその質問事項に対する詳しい説明が表示され、古墳についての学習が深められるようにした。また、不正解だと「もう一度考えよう」が表示され、問題シートに再びもどれるように構成した。クイズの正解・不正解のみに熱中しすぎないように、次の問題にいくためのボタンは説明文の一番下に配置し、答えに対する説明を読まなければ次の問題に進めないようにした。

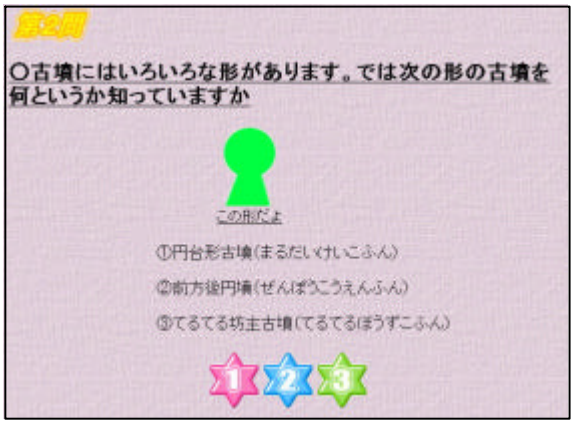


図７　問題シート

(5)　古墳めぐりをしてみよう

古墳を実際に見学する時の注意事項などを「準備」の巻、「探す」の巻、「見つかったら」の巻、「石室」の巻、「古墳の専門用語」の巻の五つに分類し作成した(図８)。

特に「古墳の専門用語」についての説明では専門的な用語を多く取り入れるのではなく、児童の学習状況を考慮しながら、古墳めぐりをする際に最低限必要だと考えられるものを選んだ。また絵などを用いて児童の理解を支援した。さらには休日などを利用して、学習を深めたいという時にも対応できるように、その内容を一般的な注意事項まで広げた。

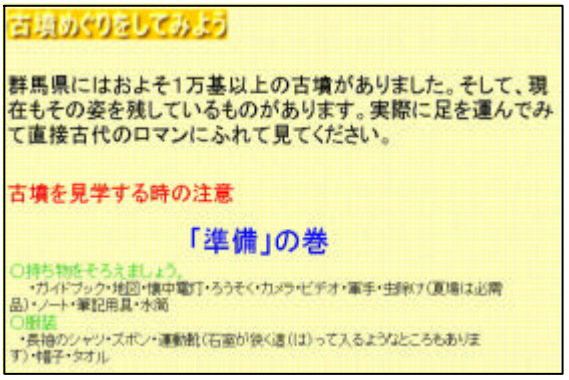


図８　古墳めぐりをしてみよう

(6)　はにわ

古墳と密接な関わりをもつ埴輪についての学習もできるように埴輪に関する情報を入れた。

埴輪には大きく分けて円筒埴輪と形象埴輪がある。その二つに分けて、写真を中心に掲載した。群馬県は全国的にも埴輪が多い地域であることから、写真は群馬県内で発見されたものに限定した。県内で発見された埴輪を取り上げることで古代の歴史を身近に感じさせることができると考えた。

　また、特に形象埴輪については、なるべく多くの種類の埴輪を掲載し、埴輪を調べれば、当時の人々の生活の様子が想像できることを気づかせる内容にした（図９）。

図９　はにわのページ

(7)　リンク集

　インターネットを利用してさらに調べ学習ができるようにリンク集を作成した。

　Web 上には非常に多くの情報がある。その情報の中から自分の調べたいことを見つけるのは大変な時間が必要である。また、その情報にたどり着けないこともしばしばである。そこで小学生の学習に適した情報がすぐに得られるように内容を選んでリンク集としてまとめた（図 10）。

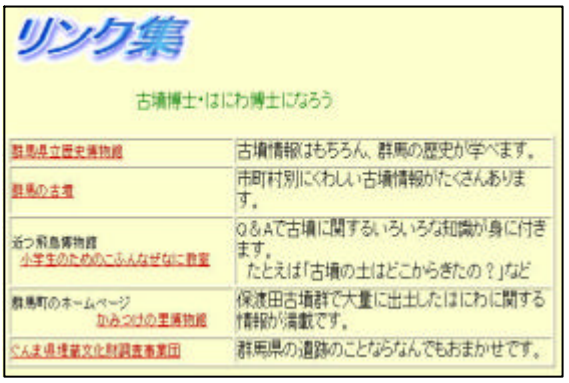


図10　リンク集

　リンク先の数ははやや少なめだが、ここをスタートとしてインターネットを活用していけば、児童の課題に十分対応できると考えた。

3　実践の結果と考察

(1)　授業実践の概要

　本教材を「古墳めぐり」の事前活動で活用した。そのねらいは「古墳に関する興味・関心をを高め、早く行って見てみたいという気持ちをもたせること、それぞれの古墳を見学する時の見学のポイントを明確につかませること」とした。二人で一台のコンピュータを使用して自由に活用させた。「古墳めぐり」で使用するしおりに、これから行く古墳の情報から「ここが見てみたい」「これがしたい」などの観点で見学のポイントを記入させた。そして、活用後アンケートをとり、その成果を検証した。

(2)　授業実践の結果と考察（６年児童 114 名対象　平成 14 年 11 月５日実施）

　授業実践の結果については直後に行ったアンケートの結果を中心に考察することとする。まずは、「早く古墳めぐりに行きたくなりましたか。」との問いには 78 %の児童が早く行きたいとの回答を得た。また、感想の中に動画に関する意見が多く見られた。特に石室に入る直前で止まる動画については、止まった瞬間に歓声を上げる児童が多く見られ、「その先が見てみたい。」という意見や「動画を見ていてわくわくドキドキした。」という意見などが多くあった。動画は児童の活動への意欲を掻き立てるのに非常に有効だったと考える。さらに、見学のポイントを考えさせたところ、「○○古墳の石室に入ってみたい。」「○○古墳の石室の盗掘の跡を見てみたい。」「土器や埴輪の破片を拾ってみたい。」「石の大きさを実際に見て、さわってみたい。」などというポイントがでてきた。このことから、児童の古墳に対する興味・関心はさらに高まったと判断できる。そして、そのポイントを教師側の助言を交えながら、しおりの中

に明記させたことが明確な課題設定につながっていったと考えられる。

次に、クイズは児童にとっては興味深かったようである。楽しくできたと回答した児童が 80%をこえた。実際の活動の様子を見ても、正解するまで何度もチャレンジする姿や、回数をこなすに連れて、やがて解説文をじっくりと読む姿も見られるようになってきた。このクイズもまた、児童の古墳に関する興味・関心を高めるのに有効であったと考える。

その他の意見として、「古墳のことがよくわかった。」「渋川市の古墳について、もっとくわしく調べてみたい。」「吉岡町の古墳に行ってみたい。」「近くに行けそうな古墳があったので行ってみたい。」など、次への学習の発展が期待できる意見も多く見られた。一方でこれからの課題につながる意見もあった。「ふりがなをもっとふってほしい。」「動画を増やしてほしい。」「クイズにレベルがあるとよいと思った。」「最後にクイズの評価があるといい。」「内容が少しむずかしかった。」「むずかしい用語があったのでそれをわかりやすくしてほしい。」というものである。

最後に昨年度まで行われてきた「古墳めぐり」の事前活動と比較してみると、本教材を活用した授業は、児童の古墳に対する興味・関心が高まり、調べる視点をもって見学に行くことができたという点において、有効だったと考える。また、内容の中心を渋川市周辺と総社町古墳群にしぼったことで、自分たちの身近なところにも歴史の遺産があり、そこには確かに人々の暮らしがあったということが実感として理解できたのではないかと考える。

Ⅴ　研究のまとめと今後の課題

本研究では特に動画が児童の学習意欲を高めるのに有効であったと考えられる。編集作業で、石室内部まで完全に見せずに提示したことや、そこに文字を挿入したことが、児童の「早く中を見てみたい。」という意欲を芽生えさせた。アンケートの中に「わくわく」「ドキドキ」などの言葉が多く見られたり、「その先が早くみたい。」「途中で終わってしまうので残念だった。」という意見などはその意欲の高まりと判断できるであろう。動画があともう少しのところで止まってしまった瞬間の児童たちの歓声がとても印象深かった。そして、見学のポイントをしおりに書き込ませるなどして課題を明確にさせたことが、見学活動の充実につながったと考える。

また、クイズを取り入れたり、群馬県内まで古墳情報を広げたり、埴輪の情報なども入れたことも、児童の古墳に対する興味・関心を高め、明確な課題設定をさせるのに有効であったと考える。

さらに、アンケートの中から、「渋川市や吉岡町の古墳を調べてみたい。」「近くに行けそうな古墳があるのでいってみたい。」「他県の古墳も知りたい。」などと古墳に対する学習意欲の向上がみられ、次への学習の発展がみられたことも大きな成果の一つであった。

今後の課題としては、さらに県内の取材活動を継続し、古墳情報を充実させていくこと、古墳の説明をもう少しわかりやすい言葉にしていくこと、クイズをより楽しいものにすることなどが挙げられる。

そして、６年生の社会科の学習の中で、古墳時代の学習の時に、本教材「古墳のひみつ」の有効性を検証していくことも課題である。

＜参考文献＞

・古墳めぐりハンドブック　群馬県立歴史博物館友の会(1990)
・図説　はにわの本　監修　群馬県立歴史博物館　編集同館友の会（1996)
・教師のための博物館ガイドブック　群馬県立歴史博物館（1995)
・研究報告書　第 203 集　群馬県総合教育センター(2002)